

DPF とは ルーブキャット LUBEKAT.com

DPF は Diesel particulate filter の意味でディーゼルエンジンから排出されるススを主な成分とする微粒子を捕獲し環境汚染を防ぐための装置です。

この装置は細かな網状のもので微粒子を捕獲する構造になっており DPF が詰まると出力が落ち、燃費が悪化するため定期的に清浄する必要がありますが大型車両では清浄費用がかなり高くなるため、この回数を減らすことが課題となっています。

ルーブキャットはこれまでのエンジンオイルと製法が全く異なり燃焼後、個体となって DPF に固着する成分を全く含んでいないので DPF の詰まりが殆どなくなります。

DPF を詰まらせる 3 大要素

1. スス (カーボン)

→ ルーブキャットを使用するとルーブキャットは粘弾性流体でゴムのような弾性の性質を持つためピストンリングとシリンダ間の密封性が格段に上がり実効燃焼圧力が上がるためエンジンの燃焼状態が良くなり燃料の燃えカスであるススが減少し DPF が詰まりにくくなる。

*ススは燃料の過剰噴射 (ポスト噴射) で DPF 内で一部燃やすことが可能

2. ポリマー (液体プラスチック)

→ エンジンオイルは一般機械用と異なりマイナス 50 度から燃焼行程における 140 度の高温まで広い範囲で潤滑能力を維持することが要求されます。

このため従来のエンジンオイルには粘度の低下する高温時での粘度を確保するため原料油に粘りのあるポリマーを添加して来ました。

このポリマーが DPF に付くと固化し、業者に清浄依頼しなければ除去出来ません。

ルーブキャットは粘度変化を触媒処理によって抑える製法のためポリマーは含んでいません。

3. カルシウム

→ エンジンにはピストンがシリンダを高速で摺動するためシリンダやピストンの金属がイオン化しオイル中に溶け出してエンジンが摩耗します。

このためエンジンオイルは高いアルカリ性にしておく必要があります。

原料油は中性のためこれまでは弱アルカリ性である**カルシウム**を添加してエンジンオイルとして使用して来ました。(このため従来のエンジンオイルは**弱**アルカリ性です) ルーブキャットは原料油を触媒処理することにより**強**アルカリ性になっているためカルシウムは含まれていません。

以上のようにルーブキャットは DPF を詰まらせる 3 大要素を持っていないので DPF を使用している車両には最も適しています。

url: lubekat.com

お問い合わせ: info@lubekat.com